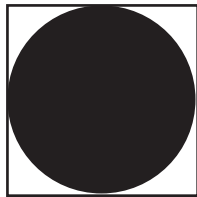


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 139

2013. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮 坂 元 裕

ニュース担当 北 川 智 久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

公益社団法人の仕事

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 宮 坂 元 裕

公益社団法人になり会員のみなさんは正式には社員となりました。その中から4名の運営責任者が選ばれ、それを理事といいます。理事長は俗名で内閣府に提出する書類には代表理事と書きます。内閣府と対面しますと、未知との遭遇がたくさんあり戸惑いながら進めています。美術教育界で狭き門を入った私たちの本領発揮はこれからです。事業局担当の水島尚喜理事のご尽力によって、最初の本格的公益事業が2年間かけて終了しました。私は昨年度受講料を払って参加し、本年度は責任者として3日間8講座すべてに参加しました。参加者は小学校を中心とした教員、美術館関係者、出版社、学生、画塾経営者、などでした。8講座すべてに参加したということは簡単なようで大変困難なことでした。猛烈な残暑の中、3日間合計16時間の講義と演習です。本ニュースに水島理事による詳しい報告がありますので、ぜひそちらをご覧ください。

一受講者として感想を述べさせていただきます。

私は、このような講座に参加するときは問題意識をもって参加することにしています。私はハーバート・リードの『芸術による教育』第7章、芸術教育の3つの側面、(新訳版240ページ)に「鑑賞について述べれば、これは疑う余地もなく、教えて発展させられるものです…」という記述があり、この言葉の意味をずっと問題意識として持っていました。リードはその文章の後の方で、鑑賞は思春期以後の問題で、それまでは「経験における感覚的特質—色彩、表面surfaces、形shapes、リズム—に対する、子ども本来の反応の強さを維持することです」と述べています。今回の連続講座でこの点について奥村高明先生の「学習指導要領の鑑賞の能力の中には思考・判断・表現と知識・技能の二つの要素がはいりこみ、今後これを論理的に整理する必要がある」と、水島尚喜先生の「子どもたちに神秘や不思議さに目を見張る感性を授けてほしいというレイチェル・カーソンの言葉」が心に残りました。

第47回 日本美術教育研究発表会2013 案内

1. 期 日 2013 (平成25) 年10月20日 (日) 午前9時30分受付～午後16時30分閉会予定
2. 会 場 東京家政大学 板橋キャンパス 図書館棟
[〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1]
3. 主 催 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)

第47回 日本美術教育研究発表会2013（最終案内）

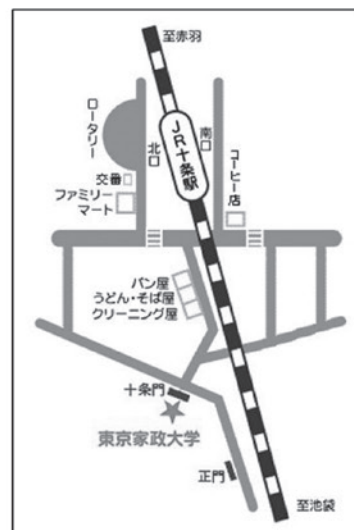
□主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
(InSEA-JAPAN)

□後 援： 文部科学省

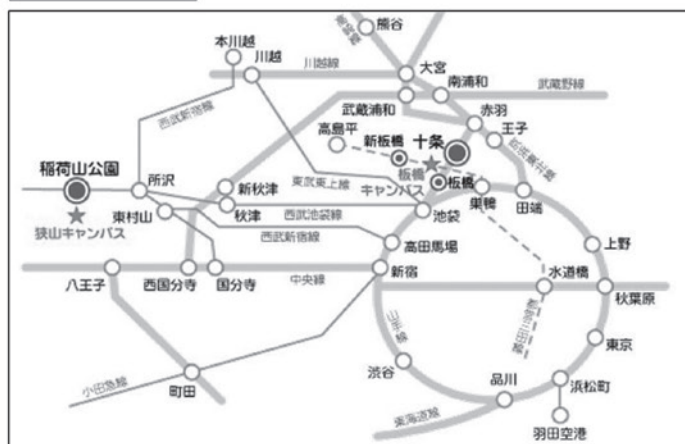
□開催日時： 平成25（2013）年
10月20日（日） 9時30分～16時30分

□会 場： <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/70/index.php>
東京家政大学板橋キャンパス図書館棟
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

□アクセス： JR埼京線十条駅下車徒歩5分
JR埼京線板橋駅下車徒歩17分
都営三田線新板橋駅下車徒歩12分



案内図



□参加資格： 会員以外の方でも参加できます。
参加費は無料、事前申し込みも不要です。
お問い合わせの上、ご参加下さい。

□昼 食： 当日、近隣には昼食を購入する店はありません。また、学食も利用できませんので昼食は持参してください。

□問合せ先： 研究局長【事前・事後】
山口喜雄 宇都宮大学
TEL&FAX 028 (649) 5364
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

開催大学【当日のみ】
結城孝雄 東京家政大学
携帯電話 090-2387-6094



第 4 7 回 日本美術教育研究発表会2013

平成 2 5 (2013) 年10月20日(日) 会場 東京家政大学図書館棟
主催 公益社団法人日本美術教育連合 後援 文 部 科 学 省 (申請中)

9:30 9:45 9:55 (移動)	受付 (当日、場所を1階に掲示します) 開会式 (発表会場 A : 103A講義室/定員200名/3階) 発表会場 A と B は3階、 C と D は4階			
10:00	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 [モジュール発表] H・リード卿令息のペン・リード先生への面談調査をめぐってー英国リーズ大学付属図書館H・リード特別コレクション室にて 滋賀大学/福島大学/宇都宮大学 新関伸也/天形 健/山口喜雄 A1	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 [モジュール発表] 日本の文化を学ぶーworkshopをデザインする 東京福祉大学/千葉大学/群馬大学 手塚千尋/佐藤真帆/茂木一司 B1	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 [モジュール発表] 造形活動における幼児と親及び社会との共感を基軸とした関係構築の可能性に関する考察ー海外における学会発表を通してー 東京造形大学 石 賀 直 之 C1	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 (発表準備・機器調整) ※Macを使用される発表は、接続コードを持参してください。 ※今回は発表者多数のため控室はこの枠内のみの利用となります
10:55 (移動)				
11:00	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 [モジュール発表] 「フランス教育省の“Historire des Arts”の普及活動についてーデジタル芸術情報の提供と活用ー東京家政大学 結 城 孝 雄 A2	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 2011年以後求められる美術教員に関する一考察 宇都宮大学大学院1年 金 子 優 人 B2	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 五感に導くための鑑賞実践の工夫I 秋田公立美術大学 尾 澤 勇 C2	
11:25 (移動)				
11:30	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 オーストラリアにおける美術教育を通した異文化理解教育について 東洋家政大学4年 小 川 沙弥香 A3	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 美術教育におけるMoodleをベースにした色彩学習・実験システム 佐賀市立昭栄中学校/ 中村学園大学 姉川明子/姉川正紀 B3	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 タブレット型コンピュータを活用した高校美術の表現と鑑賞の授業 秋田県立西目高等学校 黒 木 健 C3	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 子どもの絵の世界 松山市立高浜小学校 木 村 早 苗 D3
11:55 (移動)				
12:00 12:10	研究発表者(全員)への諸連絡 昼 食 ・ 休 憩 (11:55~ / 65分) ※【要注意】当日、近隣には昼食を購入する店はありません。 また、学食も利用できませんので昼食は持参してください。			
13:00	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 ニューヨークにおける子どもをとりまく環境と日本人学校での美術教育 福岡教育大学大学院1年 樋 口 和 美 A4	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 思考の連続性を促す指導・環境づくりの工夫ー第1学年「かげのなかにみつけた！わたしのおはなし」ー 愛媛大学教育学部附属小学校 古 鎌 幸 一 B4	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 米国における美術館教育の潮流から学ぶ 放送大学 大 高 幸 C4	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 幼児の粘土素材との関わりについての考察 駒沢女子短期大学 小 口 偉 D4
13:25 (移動)				
13:30	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 韓国の新しい美術科教育課程ー実践を手がかりとして 春川教育大学 柳 芝 英 A5	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 20世紀後半の美術教育における「創造性」概念の検討 宇都宮大学大学院1年 黛 早 織 B5	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 調査報告：米国の美術館における鑑賞教育の今 東京国立近代美術館/ 国立西洋美術館 一條 彰子/寺島 洋子 C5	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 色見本提示からの女子学生の理想語 和洋女子大学 島田 由紀子/大神 優子 D5
13:55 (移動)				
14:00	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 日本の国際協力分野における美術教育ー基礎教育への取組ー 東京学芸大学附属竹早中学校 山 田 猛 A6	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 西野範夫氏の造形遊び論に関する一考察 宇都宮大学大学院2年 多 胡 慎 平 B6	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 テート美術館「アートへの扉」理論の検討(2)ー「文脈への扉」を開く鑑賞活動の試みー 聖徳大学/ さいたま市立植木小学校 奥村 高明/飛知和 朋子 C6	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 5歳児クラスの描画研究 鏡を見て自分を描く(自画像はどう変化するか) 東京家政大学 森 田 浩 章 D6
14:25 (移動)				
14:30	休 憩 (14:25~ / 15分)			
14:40	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 須田国太郎と美術教育ー戦後期の日本における図画工作科・美術科検定教科書の作成と美術教育の状況に関する考察ー 千葉敬愛短期大学 久保木 健 夫 A7	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 大学生の主體的な学びを育む彫塑教育ー省察的ワークシートの活用を通してー 宇都宮大学 三 上 慧 B7	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 図画工作科における表現・鑑賞を一体とする造形活動の理論化の試みーレヴィ=ストロース芸術哲学を援用して 上智大学大学院後期課程2年 桐 田 敬 介 C7	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 図画工作科・美術科で育む空間認識力に関する一考察 埼玉県立越谷西特別支援学校 小 野 恵 D7
15:05 (移動)				
15:10	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(15)ー「高齢化」と美術教育に関する考察 宇都宮大学 山 口 喜 雄 A8	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 保育者の描画観に関する一考察ー生活画を中心にー 大 橋 麻里子 B8	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 中学校における美術鑑賞文の指導に関する一考察 筑波大学大学院後期課程2年 佐 藤 絵里子 C8	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 素材論序説ー素材の名の獲得に向けて 東京藝術大学大学院2年 水 島 ゆ め D8
15:35 (移動)				
15:40	発表会場 A : 103A講義室 (美術教育制度・沿革) 定員200名 LCI「美的教育プログラム」にみる学びの可能性ー国際教育者ワークショップの実践と我が国の美術教育につなぐ視点ー 東洋大学/東京造形大学 北澤 俊之/小林 貴史 A9	発表会場 B : 103K演習室 (美術教育実践・授業研究) 定員120名 日中友好子ども版画展ー版画教育の再発見 和光大学 江 渡 英 之 B9	発表会場 C : 104Bコンピュータ室 (美術館教育・鑑賞教育) 定員100名 中学校と美術館との連携による鑑賞教育の実践ー青山中学校の10年間におけるとりくみからー 玉川大学/港区立青山中学校 高橋 愛/森 恵美子 C9	発表会場 D : 104CALL教室 (幼児保育造形・造形発達) 定員100名 子どもの美的経験における比喩的イメージの活用と課題IIー発想・構想プロセスの「よる・はなれる」思考に着目してー 東京学芸大学附属小金井小学校 立 川 泰 史 D9
16:05 (移動)				
16:10	閉会式 (発表会場 A : 103A講義室/定員200名/3階) (終了・片付け・16:35会場閉鎖/移動)			
16:25	懇親会 (開宴/申込は当日受付にて)			
16:40				
18:30	懇親会 (お開き・予定)			

第47号 日本美術教育研究論集 2014

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第47回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第47号研究論集2014』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の（１）～（５）の条件を全て満たしたものに限りします。
- （１） 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - （２） 投稿原稿が、研究論集の要項に適合していて、書式・分量等が守られていること。
 - （３） 掲載料を期日（2013年11月13日）までに納入していること。
 - （４） 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
 - （５） 引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- 論文査読： A群（理論・実践研究論文）・B群（実践研究報告等）・C群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（A群のみ）を含め、下記の文字数を守ってください。
- 1頁分は、A 4横組2段 23字×44行×2段＝2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第5行目（2段取り）までに、題目（副題）・所属・氏名を記載し、本文との間に2行（2段取り）のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目（1）（2）（3）…、小項目①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁（C群のみ6頁も可）とし、掲載料は一般（給与を得ている内地留学生等を含む）は15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。（抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。）
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1- 86036（右寄せで記入） 郵便振込です。
- 加入者名： 社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人：（〒）おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通信欄： 例 掲載料15,000円（一般、8頁）+増頁分6,000円（2頁増の場合）＝21,000円（計10頁）
- 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円（院生・学生は5,000円）のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/13（水）必着

- 投稿〆切： 2013（平成25）年11月13日（水）必着。A群・B群・C群とも、
- ①正1部と副4部（コピー可）計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。
- 投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
- ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
- なお、発行日は2014（平成26）年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

連絡・問合先

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111（代） ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

造形・美術教育力養成講座 第1期 「子どもの鑑賞の力をひらく」 連続講座を終了して

事業局長 水 島 尚 喜

8月26日から28日の三日間にわたって開催された連合主催の連続講座「造形・美術教育力養成講座」―子どもの鑑賞の力をひらく―（第二次、全8回）が終了しました。以下に終了後に実施した「参加者全員アンケート」の結果をもとに成果を報告申し上げます。

本年度の参加者の延べ人数は約120名で、昨年10月、11月の2ヶ月にわたり同内容で開催された第一次の参加者数よりも多くなりました。今次の開催時期については妥当との意見が大半でしたが、「8月初旬がよい」、「地域によっては学校が始まっている場合もあるので、8月の最終週ではなく、前の週くらいが妥当」との意見もありました。大学等で開催されている免許更新講習等の他のイベント時期なども見据えながら、次年度以降の開催時期を検討する必要があります。参加者の半数は、小学校教員の方で、ついで美術館学芸員ボランティアが多く、それ以外は中学校教員、塾経営者、大学院生などの学生でした。

講義内容については、満足度が高く、参加された方の学修への意欲と相俟って、どの会場も熱気に溢れていました。講義内容が充実しているので、同内容で今後数年間連続してもよいのではないかと意見もありました。また、開催場所については、二つの会場ともに至便であり、大変高評価でした。尚、8回の講座の満了者は、6名の方になりました。

今後の講座内容への希望としては、以下のような提言がありました。以下に、キーワードでお示します。

「造形遊び」「造形遊びの評価」「評価」「図工授業づくり（指導案など）」「授業研究、題材研究／開発」「小学校他教科との連携」「幼児教育・保育」「レジジョ・エミリア」「海外美術教育事情」「美術館・地域連携」「美術史学び直し」等。

今回は受講者向けの配布テキストを作成する予定でしたが、諸事情により見送らざると得ませんでした。次回以降の課題としたいと思います。



西村会員による「造形カルタ」のワークショップ



宮坂理事長から「修了認定証」の授与

公益社団法人日本美術教育連合 第3期 第1回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成25年6月5日(水)
2. 開催日時 平成25年6月30日(日) 午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 筑波大学附属小学校
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 水島尚喜 宮坂元裕 山口喜雄
5. 出席した監事の氏名 北川智久 郡司明子
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 大坪圭輔理事より国際局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

2014年7月7日から11日にかけて、メルボルンで開催のInSEA世界大会について、会員には、できるだけ速やかに情報を流し、発表者、参加者の募集をしたい。それについて意見交換をお願いしたいとの提案があり、協議がなされた。なお2017年の世界大会は大韓民国の大邱に決定したとの情報も伝えられた。上記の具体的な提案に対し、慎重審議した結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 山口喜雄理事より研究局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

結城孝雄運営委員の協力により第47回日本教育研究発表会の会場と日程が東京家政大学板橋キャンパスにおいて2013年10月20日に決定した。研究発表会の運営について慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 水島尚喜理事より事業局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

大坪圭輔理事の協力により2013年8月26日から28日まで武蔵野美術大学新宿サテライト及び四谷アートプラザを会場として、幼小中学校教員、美術館関係者、日本美術教育連合会員、大学院生、大学生、画塾等経営者を対象とした、『造形・美術教育力養成講座、第一期2次(2年目)子どもの鑑賞の力をひらく』として開催したいむねの提案があった。内容と運営について慎重審議した結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

第4号議案 第4期役員改選にあたり、選挙管理委員長について代表理事より、郡司明子会員の推薦があり、慎重審議した結果、第4号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

公益社団法人日本美術教育連合 第3期 第2回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成25年8月6日(火)
2. 開催日時 平成25年9月1日(日) 午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 筑波大学族属小学校
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 宮坂元裕 山口喜雄
5. 出席した監事の氏名 北川智久
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

第1回理事会議事録の確認を行った。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 水島尚喜理事より(書面によって)事業局の本年度の活動について次のような報告と提案があった。

2015年8月26日から28日まで武蔵野美術大学新宿サテライト及び四谷アートプラザを会場として、幼小中学校教員、美術館関係者、日本美術教育連合会員、大学院生、大学生、画塾等経営者を対象とした、『造形・美術教育力養成講座、第一期2次(2年目)子どもの鑑賞の力をひらく』が開催された。昨年度と今年度は基本的には同じ内容で講座を開設し、2年間で申し込み延べ人数は120名を上回った。2年間で8講座をすべて受講した受講認定証発行者は6名であった。本年度をもって第一期は終了し、来年度から第二期としたいという提案があった。内容と運営について慎重審議した結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 大坪圭輔理事より国際局企画のフォーラムについて次のような提案があった。本連合主催の日本美術教育研究発表会で発表を重ねている千葉大学、佐藤真帆さんの「イギリスと日本の比較研究による日本の工作教育の在り方」をテーマとして、フォーラムを企画したい旨の提案があり慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 山口喜雄理事より第47回日本美術教育研究発表会2013の運営について以下の提案があった。

開催日平成25年10月20日。会場、東京家政大学板橋キャンパス。発表申込件数34件(発表者人数44名)について、運営委員役割分担。発表者の発表会場割り当て。司会者、論文主査、副査の分担。日本美術教育研究論集第47号編集の内容、編集日程などの提案があった。提案について慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

事務局便り

1. 第47回日本美術教育研究発表会 開催迫る！

10月20日（日）に行われる、第47回日本美術教育研究発表会（文部科学省後援）が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は34件の研究発表が予定されています。広く日常的な実践のなかで児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。本会は参加費無料の開かれた発表会です。連合の会員の皆様はもちろん、研究関係諸氏、同僚や学生のみなさんに大いにご参加いただきたいと思います。

2. 平成25年度（2013年度）会費納入のお願い

会費未納の皆様は、下記まで年 会費6,000円 を郵便振替にて納入してください。

（公社）日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。※

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます※

* 同封の振り込み用紙をご利用ください。（手数料はご負担ください。）

お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方は－が、不足の方は△が印字されています。ご確認ください。

* 第2回通常総会において、年会費及び論文掲載費の改訂が全員一致を持って可決決定されました。つきましては、昨年度より年会費を6,000円とさせていただきます。すでに本年度以降の年会費をご入金いただいている方は、誠に申し訳ございませんが、差額をあらためてご入金いただきますようよろしくお願いいたします。（振込用紙に差額を記載いたします。）

* 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲ 3年以上の会費未納の皆様へ

* 平成24年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

■お問い合わせ先：事務局長 西村 德行（筑波大学附属小学校）まで

TEL+FAX 03-3946-1962（図工部直通）

E-mail tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp